

SHIN CLUB 125

(株)ユニホー辰カンパニー 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



ジンカンパニー本社ビル 撮影：アック東京

今月のトーク/monthly talk

自社ビル

建物づくりに意欲のあるお客様だからこそ実現した、施工者冥利につける建物が完成しました。

写真は、このたび立川市に竣工した「ジンカンパニー本社ビル」です。建物外壁は、コンクリート打ち放しに数種類の型枠を採用、シンプルな中にもデザイン性のある建物になっています。

オーナーの、藤原仁社長にお会いしましたところ、予想以上に若い方なので驚きました。

「独立は18歳。早かったんですよ。19歳のときに渋谷区の宇田川町に小さなセレクトショップを出して、次の年に2店舗、それ以来どんどん仕事を広げていきました」と話す藤原社長は現在42歳。最初はインポートものなどを中心に展開したそうですが、28歳のときに結婚して、奥様がデザインを担当するようになり、オリジナルブランドを立ち上げました。平成5年に会社法人とし、平成7年ジンカンパニーを設立、現在インドネシアに縫製工場も所有しています。

「ずっとビジネスをやってきて、いいときも悪いときもありました。でも落ち込んだときには都心のどこかのビルの屋上に上るんです。すると、数え切れないほどビルが見える。『世の中には、こんなにたくさんのビルがあって、たくさんのビルオーナーがいて、たくさんのビジネスをやっている。俺もいつか自社ビルを建てるんだ』とまた前向きな気持ちになれましたね」と自社ビルへの思いを語ってくれました。

ジンカンパニーは、20代の女性に人気の「OSMOSIS（オズモー

シス)」、「loaf（ロフ）」、大人の不良スタイルを追及したメンズファッション「No.ID（ノー・アイディ）」などのブランドを、企画・プロデュース、制作、販売まで行っています。店舗も札幌から福岡まで約30店と全国展開しています。特に、ウェブを利用したオンラインショップでは、かわいらしい全国の店舗スタッフがブログやツイッターで、洋服のコーディネートやお薦めのアイテムを、随時紹介しています。最近のアパレル業界では、オンラインショップをうまく使いこなすことも必要不可欠な要素になっています。



ジンカンパニー 藤原 仁社長

「よく『自社ビルなら、なぜ都心に建てなかったんですか』と聞かれるんですが、別に都心にある必要はないですね。妻も、仕事と子育てを両立させたいという気持ちを持っていますし、宇田川町にある必要もない。マス・マーケットを目指さなくても、適切な価格でうちのファンの要望に応えられるデザインを生み出していけばいいんです」と藤原社長。グラフィックソフト「Illustrator」を使って、店舗の内装デザインも行うという社長の若い感性が、社内全体に行渡っているようでした。

ジンカンパニー本社ビル



多種類の型枠で豊かな表情を見せる建物

JR 立川駅から徒歩数分、多摩モノレールが走る幹線に近い場所に、アパレル関係の会社の事務所とオーナーの自宅を設計することとなった。店舗の内装デザインを自身で行うことも多いというオーナーとは年齢が近いことから、共に作り上げるという感性を共有して計画を実行していった。

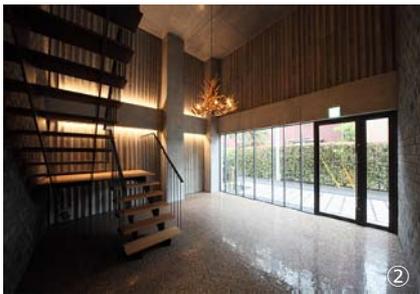
商業地域、第一種中高層住居専用地域、第一種低層住居専用地域という3つの用途地域が入り組んだ、法的規制の厳しい条件の敷地である。建物の形体よりもオーナーの事業である洋服の生地のように、素材を生かして、打ち放しの外壁に数種類の型枠を用いて変化をつけている。

1,2 階の事務所では一体感を持たせるために一部吹き抜けを設けた。天井に配管の設備を顕わしにするなど機能性を重視する一方で、OA フロアはよくあるタイルカーペットではなく、無垢のメルバウ(南洋材)のフローリングに、天井の照明のラインとそろえた、オリジナルの配線ピットラインを作った。

3-5 階の住宅部分は、これも複合した斜線規制によりテラスに段差をつけたり、限られた広さを天空率で解決しながら、なるべく大きな空間を確保できるように工夫した。26 畳ほどのリビングダイニングは、大きなガラスの開口部を通してウッドデッキテラスとひとつつながりに感じられる。階段側の壁はコンクリート打ち放しだが、小叩き仕上げとしている。これには以前我々の設計した家で採用したものをオーナーが気に入ってくれて、今回の設計に結びついたという経緯がある。

住宅部分の照明計画は、話題の東京スカイツリーの照明計画を行っている戸恒浩人氏が担当している。間接照明や部屋のディテールに合わせた効果的な照明で、空間に奥行きを与えてくれている。

内装はタイル、石、無垢の木や竹など、素材感を感じさせる材料を多用している。辰カンパニーの現場担当者の心配りに感謝している。
(森清敏氏・川村奈津子氏 談)



①全景②1階事務所エントランス③1階奥の吹き抜け部分。テーブルはオーナー自らデザインされたものを家具製作会社が寄贈④1階事務所。左手ガラス仕切りの部屋は会議室⑤2階事務所部分。左手テラスは壁で周辺からの視線を遮る⑥住居部分のリビングダイニング。右側肩持ち階段の壁は小叩き仕上げ⑦デッキテラスとの一体感あふれるリビング。床はマーフィー・ブルカーノビーチ(フレスコデユナ仕上げ)とニッシンイクス・ブラックアッシュの2種類の自然塗装品⑧和風ゲストルーム。和紙の壁紙の施工は表具屋が行う⑨住居部分エントランス。タンポアをRに貼り、トイレの扉も目立たない⑩トップライトで明るいバスルーム⑪4階階段室にあしらった竹柱

所在地：立川市
構造：RC造
規模：地上5階
用途：事務所・住宅
設計：森清敏・川村奈津子/MDS
照明：戸恒浩人/シリウスライティング
オフィス
施工担当：夏井・澤井
竣工：2010年7月
撮影：アック東京



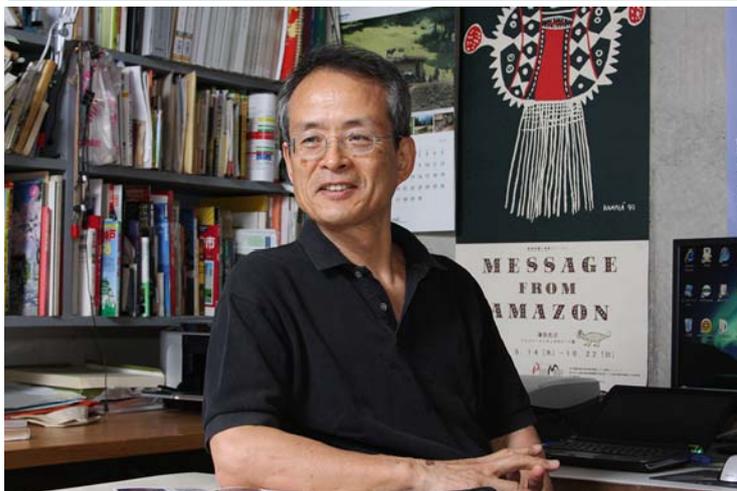
採用した6種類の外壁の型枠は以下の通り。

- 01 = ラウンベニヤ型枠
- 02 = 杉縁甲板型枠
- 03 = RM造型枠
- 04 = 特殊型枠(△型枠)
- 05 = ラーチ 900 角型枠
- 06 = ラーチ短冊型枠

普通の若者の国際化を推進

東京工業大学名誉教授 建築家

八木 幸二



撮影：アック東京

今月は今年4月に東京工業大学を退職された、八木幸二先生に登場いただきます。「風土と建築／都市」をテーマに世界中を訪れ、いろいろな国の研究者とも交流のある八木先生に、ご自身の研究と教育者としての40年の足跡を語っていただきました。

一若い頃からずいぶん海外にいらっやっていますね。

八木：私が学生だった1960年代後半はまだ持ち出し外貨に制限があり（最大500ドル＝約18万円）、海外にはなかなか行きにくい環境でした。ベストセラーにもなった小田実の『何でもみてやろう』にあこがれて、いろいろな建築を実際に見ようと、当時大学で始まったヨーロッパ研修制度を利用し、4年生の春に出発しました。横浜から5週間かけて海路でマルセイユへ渡り、ヒッチハイクでオランダへ。そしてハーグの設計事務所に研修で3ヶ月勤務した後、翌年はデンマークの設計事務所で5月までアルバイトをし、2ヶ月間北欧を旅行しました。その後北米に渡り、3ヶ月で再びヨーロッパへ。北アフリカ、南欧、中近東を経て、アンコールワット、台北とアジアを訪れ、沖縄（米軍政権下）経由で翌年3月に帰国しました。

今の若い人は何でも簡単に手に入り、ネットで検索すれば行かなくても行ったような気になるようですが、却って気の毒ですね。当時、世界の現代建築を紹介している本といえば、“Encyclopedia of modern architecture 1963年版”1冊しかなかった。私はこれだけ持って、現地で「この建物はどこにあるのか」と設計事務所と同僚などに教えてもらいながら、建物を見て歩きました。金も情報もない、ないないづくしの旅でしたが、いい時期に学生時代を送ったと思っています。実際に行くことでいろいろな体験ができました。

一帰国後、清家研究室で万博スイス館や東工大長津田キャンパスの計画に参加されてから、今度はシリアのダマスカスにOTCA（現JICA）の専門家派遣で行かれたのですね。

八木：急遽結婚して行くことにしたのですが、そこで中庭住居や集落構成を行う際に現地の技術者が、欧米風、東欧風に計画するのを目の当たりにして、建物はそこの風土にあったものがないはずなのに、と違和感を覚えたんですね。それがきっかけで「風土と建築／都市」について研究することになりました。

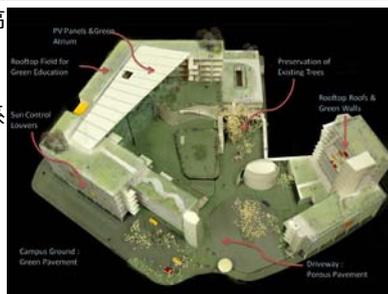
シリアから帰国後は、茶谷研の助手となり、住宅設計2つを行った後、オー

「今後は♪ケセラセラ Whatever will be ,will be の will が shall に代わる感じかな」

八木 幸二

1944年 愛知県生まれ
 1969年 東京工業大学建築学科卒業
 1971～74年 都市計画援助のためシリアへOTCA派遣専門家
 1975～76年 オーストラリア・クイーンズランド大学研究員
 1980年 アメリカ・オクラホマ大学客員助教授
 1987年 マサチューセッツ工科大学客員研究員
 1987年～ 東京工業大学建築学科助教授を経て、同大学教授 大学院教授
 2010年 同大学退職 名誉教授となる。
 中近東、東南アジア、中国などの伝統的民家・集落の構成原理を研究。
 また、さまざまな文化と風土を背景としながら独自の発展を遂げたアメリカの住宅を比較研究。
 主な作品にトヨタ自動車労働組合会館、アムステルダムNONK集合住宅、プラタナスの家など。

マカオのカソリック系中高一貫校の跡地に計画中のUSJ（旧IIUM）大学キャンパス計画。2009年着工開始。監理はポルトガル系のコンサルタント会社。



Koji Yagi

ストライア大学のクイーンズランド大学の熱帯研究所へ。植民地政策の長いイギリスには熱帯建築研究所があり、バブア・ニューギニアなどの熱帯地方とシリアなど乾燥地方の事例比較をまとめ、国際会議で発表する機会を得る。また中国のヤオトン（伝統的な地下住居）の研究も始める。省エネルギー住宅として欧米の注目を集め、地下空間に関するいくつかの国際会議で発表する。その後、オクラホマ大学から客員教授に誘われ渡米。オクラホマでの講義の一部が講談社から「A Japanese Touch for Your Home」という本にまとまる。またそのとき学生と行った大学周辺の町の住宅探訪がきっかけで、アメリカ住宅建築研究が始まり、その後「アメリカの住宅建築Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（講談社）」を上梓する。

八木：実際の設計も、常に行っています。88年には、「アムステルダムNONK集合住宅」の基本設計に加わりました。「オランダ・ナッソウ・カゼルネ」と呼ばれるこの建物は、アムステルダム中心から東南に1.5kmの練兵場を再開発したもので、「由緒ある建物を残してほしい」という住民の陳情により計画がスタートしました。実施設計を担当した、ハーグの建築家・ハンス・ファン・ベーク（留学時の研修先のハーグの設計事務所仲間）が、6つの高層棟の設計を6人の外国人の建築家に依頼したのです。住民代表の建築家も加わり、全員が1週間の合宿の中で議論を戦わせました。それぞれ違った個性の建物が、レンガという共通の素材を使って3年後の1992年に完成。運河にグラスボートを浮かべた風変わりな「ほぼ完成式」には文化大臣も訪れました。集合住宅先進国ならではのシステムで、思い出深いものでした。

一八木研究室では、たくさんの留学生が学んでいますね。

八木：大学の国際化という大きな流れのお陰です。デルフト工科大学、パリ・ラヴィレット大学、ウィーン工科大学などと交流協定を締結するほか、ワークショップを行っています。日本でもヨーロッパのECTSのように単位互換システムを導入したりして、本当に意味のある留学をさせてやりたいですね。ゼミの議事録を英語で併記させたり、いくつかの本を学生と翻訳するなど、本格的な語学力を育成するようにしてきました。学生には人間関係を大切にするように言っています。若い頃の人間関係は、気兼ねなく長く続けられる特別なもの。将来いろいろな仕事に繋がる可能性があるのですから。



40年の足跡をA1サイズにまとめたBiographyと留学中に大いに役に立った「Encyclopedia of modern architecture」の前に。自邸「プラタナスの家」で毎年5月に研究室OB・学生を招いて新入生歓迎パーティを開いている。退職後も10年先までスケジュールを入れている。

「熱中症緊急対策指示を発令」 7月26日

例年にない猛暑が続いています。厚生労働省の調べによると、過去3年間(平成17～19年)で、熱中症による死亡災害が最も多かった業種は建設業で、特に8月に集中しています。時間帯では午後2時から4時台までが集中していますが、それ以外の時間帯でも起きており、また作業日数別の発生状況を見ると、ほとんどが作業開始初日から数日の間に発生しています。身体が順応するまでの間が危険なことがわかります。高温環境下での作業においては、作

業場所に温度計及び湿度計を設置し、作業中の温湿度の変化に留意した適切な熱中症の予防対策が求められています。

弊社でも、作業員の安全対策に留意し、緊急時すぐに現場で対応できるように、事務所から離れた現場にもクーラーバックを用意し、氷に保冷材、タオル、アイスノン、塩飴等を入れて職方の休憩所に常備するように改めて指示を行いました。(写真参照)



「緊急時の非常用資機材の近隣貸出し開始」 7月30日

7月は日本各地で豪雨による災害が起き、改めて日ごろからの備えがいかに大切かを痛感させられました。弊社では、地震、火災、洪水などの災害時に必要で、一般家庭ではなかなか用意することが難しい工具や機材が、建設現場にはあることから、この度近隣の方々に少しでもお役に立つことが出来るよう、緊急時、現場の機材の貸出を本格的に開始することにしました。

いざというときに、弊社の現場に駆けつけていただければ、必要な資機材をお貸しできることを、お知らせ看板に明記します。

内容は、大バール、大ハンマー、シート、土嚢袋(砂)、ロープ、スコップ(角、剣)、電工ドラム、水中ポンプ、鋼製パイプ、一輪車などです。その他のものも何でも、現場担当者にお尋ねいただければと存じます。

9月1日は、「防災の日」です。ご自宅周辺の防災対策を、もう一度見直してみたいかがでしょうか。



写真のように、現場の建築計画の看板の横に貸出についてのお知らせを掲示しております。順次全ての現場に貼り出して行く予定です。

「8月研修会 テーマ『外断熱工法について』 8月7日

8月は以下の内容で研修を行いました。現在、内断熱工法が主流ですが、環境的にも、近い将来は外断熱工法が標準化される勢いです。商品の概要、施工方法等を改めて、確認しました。

・「東邦レオの『ドライビットシステム』について」

講師 東邦レオ株式会社 建築関連事業部
東京支店支店長 和田清栄様
同支店 外山雅之様



弊社施工実例：
ドライビット「自己責任の家Ⅰ」
「TS集合住宅」「田園調布の家A邸」
エコサーム「自己責任の家Ⅱ」(施工予定)

・「日本ハウスの『GRC 複合パネル工法』について」

講師 日本ハウス株式会社
東京営業所 営業関東リーダー
富士忠行様
ジーシールド事業部 技術営業
工務リーダー 岸宏史様



弊社施工実例：GRC 複合パネル
「高円寺南3丁目PJ」

「東中野の住宅」地鎮祭 7月27日



東中野の閑静な高級住宅街に趣味のゴルフ・シュミレーター施設を地下に備えた、遊び心あふれる住宅です。

構造：RC造
規模：地下1階、地上1階
用途：専用住宅
設計：桑原聡
完成予定：2011年4月

「新建築Vol.2010.08号集合住宅特集に『clover house』が掲載されています。

先月号で内覧会のご紹介をした、architecture WORKSHOP 設計の「clover house」が掲載されています。どうぞご覧ください。



編集後記

- ・8月12日(木)～16日(月)まで、夏季休業とさせていただきます。
- ・猛暑で野菜の価格が高騰しています。自宅の小さな菜園で、きゅうりを収穫しています。始めたばかりの野菜づくりですが、1週間やるべきことを放置すると、すぐに手遅れになってしまいます。「何事にも通じる」と反省しきりです。